

新型インフルエンザ

2009.07.31

今年はいつになく7月としては雨の日ばかりで、せっかくの夏休みも雨で哀しい思いをしている子どもたちも多いようです。函館市内近郊では、目立った感染症の流行もなく、函館近郊での新型インフルエンザの流行も一時期心配されましたが、大きな動きにはなっていないようです。

一時のパニック的な報道から沈静化したためか、皆さんの関心が薄れたかもしれませんが、新型インフルエンザの当初予想された夏場には収束するだろうという思惑はみごとにはずれ夏になってもその勢いは続いているようです。7月21-24日の間に約1300名の新規の新型インフルエンザが報告されています。

7月24日現在の新型インフルエンザの報告数、北海道は男性69名、女性56名の計125名です。年齢的な内訳は10歳未満が34名、10代35名、20代32名、30代16名、40歳以上8名となっていて、全国平均と比べて10歳未満の感染が多いようです。現在のところ命を落とすような重症の報告はありませんが、インフルエンザ脳症の発生も言われており、子どもたちにとっては油断ならない感染症であることは変わりないようです。

各地での発熱相談センターはすでに店じまいをして、各医療機関での対応に対策がかわっていますが、新型かどうかを判定するPCR検査は原則的に集団での発生が疑われる事例に限定されており、季節性のインフルエンザとは症状、検査では区別のつかない状態になっています。

新型インフルエンザに対するワクチンは日本での供給がどのようになるのか、どういう人たちを対象にするのかはまだ決まってはいませんが、アメリカでは妊婦（インフルエンザに罹ると重症化しやすい）、6ヶ月未満の子どもを養育している保護者、6ヶ月以上24歳までの人、医療・救急関係者、64歳までの持病のある成人となっています。新型インフルエンザワクチン製造に伴い従来のインフルエンザワクチンの供給が少なくなる可能性が考えられますので、かかりつけにご相談され、早めに予約を入れるようお願いいたします。